

創立後一箇年半の短日月で十分訓練の届かない團體の力を以て要求條件全部を貫徹するといふことはむづかしい。又當時社長と最後の會見をした時自分は一先づ引取ることを言明したが、全部會社の回答を容認したと言はない。故に今後第二第三の實行委員が出て初志を貫徹して下さるがよく、自分は會社に買収された覚えは斷じてない。

との辯辭を發するや、組合員等一整に起つて之を攻撃せしめ、遂に同氏も其不明を陳謝し、茲に同氏の社會的生命は終れり。組合員は死屍を鞭つこと丈は恕されたしとの言を吐かしむるに至りしが、一同之にも満足せず、同氏に對しあはや鐵拳の雨の注がれん勢ありしも、列席中の友愛會の西尾主事之を鎮撫し、佐藤氏等の自決を迫りて僅かに事なきを得たりき。

此電業員組合幹部の醜體暴露は組合員の感情を刺戟するところ甚だしく、兩發電所組合員中には早くも電業員組合を脱退して友愛會に加盟するものあり、更に多數の従業員は第二實行委員を選出して、會社に對し再交渉を開始すべしとの意嚮次第に昂騰し來り、形勢は逆轉の徴を示し來れり。

此報を耳にするや會社は狼狽措く能はず、友愛會の擡頭は會社として死命を制せらるゝの感深く、爲めに更に強硬なる非常手段に訴へても、此際従業員側の要求を粉碎すべく決意し、同時に電力動員の準備に着手せり。

▽紛擾再燃

九日朝組合員は引續き安治川支部に集合し、聯合會、友愛會幹部も列席秘密會合を開きたるが、曩

に會社に依りて拒絶せられし三要求條項の再交渉を開始するに決し、左記實行委員を新選し、之れが交渉方につき友愛會の正式援助を求めたるが、西尾同會主事時機の點に於て最初賛意を表せざりしも、委員等は全員一致して再要求提出を可決し、同日正午新實行委員は之を携へ會社へ萩原庶務課長を訪へり。

新實行委員

澤田茂樹、澤田美徳、杉原佐太郎、竹村芳三、眞鍋善治、山本準二、稻本喜兵衛(安治川)
小西友治、佐野尊利、高倉考幸(春日出)

要求

一、曩に提出したる要求書の全部を認容せられたき事(註 電業員組合第一回實行委員の提出せる事を意味す)

二、今回解雇られたる職工の全部を復職せられたき事

三、若し萬一前二項拒否せらるゝに於ては使用職工の全部を解雇せられたき事(註 現復歸職工解雇を意味す)